

平成 16 年 3 月 24 日

厚生労働省食品安全部

厚生労働省におけるリスクコミュニケーションに関する取組について

1. 基本的な考え方

内閣府食品安全委員会事務局、農林水産省の担当官と、4 府省リスクコミュニケーション担当者連絡会議を定期的開催するなど連携を図っている。

従来型の一方的な情報提供にならないよう、分かりやすい情報の提供や御意見募集など双方向のコミュニケーションの実現に努めている。

このため関係府省とも連携し、消費者、事業者など関係者との意見交換会の開催や、関係府省の行う意見交換会への参加をつうじて、リスクコミュニケーションの推進を図るとともに、ホームページなどを活用した積極的な情報発信を進めている。

2. 現在までの取組状況（平成 16 年 3 月 8 日以降）

意見交換会の開催（関係府省と連携）

- ・ 3 月 19 日 食品に関するリスクコミュニケーション（鳥インフルエンザワクチンに関する意見交換会）
（東京：食品安全委員会大会議室）
- ・ 3 月 22 日 食のリスクコミュニケーション講演会（京都市：ホテルニュー京都）
- ・ 3 月 23 日 食品衛生に関する説明と意見交換の会（東京：（社）日本食品衛生協会講堂）

政府広報による情報発信（関係府省と連携）

- ・ 鶏肉、鶏卵の安全性について
テレビ番組「ご存知ですか～生活ミニ情報～」(3 月 22 日)
- ・ 新聞広告（3 月 16 日～19 日、21 日）

食品の安全確保に向けた取り組みのホームページ「食品安全情報」の刷新

既存の取組の着実な実施

規制の設定又は改廃に係る意見提出手続（いわゆるパブリック・コメント）や審議会の公開、情報公開など、これまで行われてきた既存のリスクコミュニケーションに関する取組みを着実に実施。

食品衛生に関する説明と意見交換の会（概要）

1. 日 時：平成16年3月23日（火） 13:00～16:30
2. 場 所：（社）日本食品衛生協会5階講堂（東京都渋谷区）
3. 主 催：内閣府食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省
共 催：（社）日本食品衛生協会
4. 参加者：222名
（事業者115名、団体44名、消費者15名、行政40名、マスコミ関係8名）

5. 議 事

基調講演

「食のリスクアナリシスとは何か - リスクコミュニケーションを中心に - 」

徳島大学総合科学部教授 関澤 純

行政説明

「新食品衛生法の概要 - 2月施行を中心に - 」

厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課 高島 洋平

パネルディスカッション

【コーディネーター】

（社）日本食品衛生協会技術参与	丸山 務
厚生労働省食品安全部企画情報課課長補佐	広瀬 誠

【パネリスト】

内閣府食品安全委員会リスクコミュニケーション官	西郷 正道
厚生労働省大臣官房参事官	外口 崇
農林水産省消費・安全局消費者情報官	姫田 尚
徳島大学総合科学部教授	関澤 純
（社）東京都食品衛生協会常務理事	山下 征洋
明治乳業（株）取締役技術部長	馬場 良雄
日本生活協同組合連合会くらしと商品研究室長	小沢理恵子

意見交換

6. 議事

< 意見交換会 >

- ・事業者の責務として、有事の危機管理が重要である。
- ・食中毒等の危機管理には、マニュアル等を作成し対応すべき
- ・事業者は、どのようにしてリスクコミュニケーションを行うべきか

アンケート結果（全体版は整理中のため質問の一部）

意見交換会参加者数 222名

アンケート回答数 145名（回答率 65.3%）

質問「本日の意見交換会の内容について満足できましたか」

1 できた	5名（回答率 3.4%）
2 おおむねできた	87名（回答率60.0%）
3 あまりできなかった	39名（回答率26.9%）
4 できなかった	2名（回答率 1.4%）
無回答	12名

質問「本日の意見交換会の進め方について」

・良かったと思う点

- ・基本から詳細まで丁寧な話だった。
- ・意見交換に長い時間をとってあるのがよかった。
- ・現状の取組みについて各府省他、まとまった意見が聞けた。
- ・事前の意見・質問募集がよかった。
- ・事前に受けた意見・質問の回答を配布資料としたのは分かりやすい。
- ・パネリストが活発に発言しているので、意見交換会が活性化した。
- ・質問者への回答した後、再度質問者に問いかけるのが良い。
- ・それぞれのテーマ、質問に対して、各担当や専門家からの様々な意見を聞ける構成が良い。
- ・意見交換の論点が整理され、まとまっており、明解で効率的であった。

・改善すべきと思う点

- ・意見交換には、もっと長い時間をとるべき。
- ・もっとテーマを絞って、それに関するものだけの意見交換を行うべき。
- ・質問に対する答えが明瞭でなく、回答が質問の趣旨とずれていた。
- ・何を目的に意見交換をするのか判らなかった。
- ・行政中心であり、企業の立場での意見交換が少なかった。
- ・もっと本音で質問できる場がほしい。（例えば立食パーティーなど）
- ・政府の方針が具体的ではない。
- ・食品衛生に関して、業種や業態別に内容を別けてやってほしい。（参加者の大まかな構成（業種、業態）が分かると良い）
- ・今後の課題と方針についての説明、コメントを重点に置いてやって欲しい。